

飛騨圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
2	変更	岐阜県厚生農業協同組合連合会飛騨医療センター久美愛厚生病院	高山市	<p>【現状、特徴】</p> <p>○救急告示病院、第二種感染症指定医療機関、へき地医療拠点病院、及び地域災害拠点病院の各指定を受け、飛騨医療圏域の中核病院として医療の提供をしています。特に、循環器内科分野、消化器外科分野においては、充実した医療を提供しています。また、ヘリポートを敷地内に常設しているため、高度治療を行う病院との連携も可能です。</p> <p>○訪問看護ステーションおよび一般急性期病床から転換した療養病床(11月より)において、積極的治療が終了した患者に対する体制を整備しています。</p> <p>○飛騨医療圏域で唯一のPET-CTを整備しており、がん診療においても大きな役割を担っています。</p> <p>○保健予防活動である各種検診等を広域な飛騨医療圏全域で実施しています。</p> <p>【課題】</p> <p>○医師確保 常勤医師減少と後任医師が不足しているなか、地域の現状やニーズ、要望を把握し、公的医療機関としての役割を踏まえつつ、それに応じた医療提供体制を継続すること。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたが、改正感染症法を踏まえ、地域の感染症病床と結核病床を有する医療機関として、機能維持と診療の充実は責務であると認識しています。当院の強みである健診事業の充実、急性期から回復期、慢性期を経た在宅医療までの「地域完結型」の医療を支えることで、地域住民に安心して安全な医療を提供します。</p> <p>また、地域の救急医療を担う紹介受診重点医療機関として、近隣の医療機関との連携強化を図る必要があります。</p>	実施済み	実施済み	実施済み	実施済み			<p>令和5年11月に、医療療養病床57床とする病床再編、産科の廃止を行いました。また、併せて急性期機能については縮小(緩和ケア病棟は廃止、一般病棟にて対応)しました。冬期の感染症や循環器系疾患の増加、凍結・積雪による外傷疾患の増加による病床の不足が懸念されますが、回復期機能病床との連携により対応する予定です。</p> <p>また、緩和ケアを必要とするがん患者についてはフレキシブルに対応し、訪問看護ステーションとの連携も図ることで、患者のニーズに沿った医療を提供します。</p>
3	変更	社団医療法人 古川病院	飛騨市	<p>【現状、特徴】</p> <p>飛騨市、飛騨地域の血液透析患者さんの受入れ、リハビリステーションが可能な慢性期病床と考えています。</p> <p>【課題】</p> <p>介護療養病床の廃止に伴う変更について考慮中です。</p>	<p>介護療養型医療施設から介護医療院に転換準備中です。</p>		○					<p>介護療養型医療施設から介護医療院に転換準備中です。</p> <p>医療療養病床17床⇒20床 介護病床38床⇒35床</p>
6	変更	岐阜県立下呂温泉病院	下呂市	<p>【現状、特徴】</p> <p>・地域の中核病院、「へき地医療の拠点病院」として生活の場の医療を県立病院の立場から創設し、地域住民及び県民から信頼され、必要とされる病院づくりを目指している。</p> <p>・大規模地震災害時においても診療機能を維持・確保するために地下免震構造を導入している。</p> <p>・ヘリポートを整備し、救急受入時間の短縮やドクターヘリによる高度急性期病院への転院搬送が可能である。</p> <p>【課題】</p> <p>・医師確保対策を充実するとともに、県立病院としての役割及び機能を継続しつつ、地域の医療ニーズに応える必要がある。</p> <p>・人口減少、少子高齢化に伴う患者ニーズの変革に対応するため、飛騨圏域全体として地域住民、行政、医療関係者等による合意形成をしたうえで、それぞれの医療機関の役割分担等を検討していく必要がある。</p>	<p>・へき地中核病院として、現状の医療体制の維持・継続及び不採算・特殊部門に係る医療の提供を行うとともに、急性期医療の提供と地域包括ケア病棟、回復期病棟及び療養病棟を有効活用して在宅復帰に向けた支援を実施する。</p> <p>・飛騨圏域は、広大な面積を有するにもかかわらず医療機関数が少ないことから、都市部のように医療機関ごとで機能を特化し、機能の分化・連携を強化する医療提供体制の構築は困難であるため、当院の取組みと併せて限られた医療資源を有効活用できるように、近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化を図っていく。</p>	実施済み	実施済み					<p>・病床数の見直しについては、新病院建設時に255床から206床に減床を実施済みである。今後も飛騨圏域南部における基幹病院及びへき地中核病院として運営するためには必要な病床数と考える。</p> <p>・なお、少子高齢化等が著しい下呂地域における医療需要に応えることが可能となるように、R5.8.1から地域包括ケア病棟の一部(38床)を療養病床に変更した。</p>

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
12	変更	下呂市立小坂診療所	下呂市	<p>【現状、特徴】 下呂市北部地域(旧小坂町)の唯一の医療機関であり、老人保健施設を併設しています。小坂地域の高齢化率は47.2%(R5.6末)となり、市内一高い高齢化地域のかかりつけ医という役割を果たしています。</p> <p>【課題】 医師確保が課題となっています。自治医大卒業医師を派遣いただき診療が成り立っています。そのため、地域のかかりつけ医ではありますが、かかりつけ医が数年おきに異動する現状にあります。</p>	地域のかかりつけ医として、主体的に在宅医療に取り組む					○		療養病床14床については、令和6年4月1日から介護医療院に転換します。